

# 長岡あーかいぶ 第17号

編集・発行／長岡市立中央図書館文書資料室

[http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/?page\\_id=134](http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/?page_id=134)

## 「安禅寺御用記」にみる 江戸時代の文書管理



▲安禅寺御用記（安禅寺所蔵、文書資料室寄託）

「安禅寺御用記」は、安禅寺（長岡市西藏王3丁目）に伝わった古記録です。江戸時代を中心に、蔵王権現とその別当安禅寺（上野寛永寺の末寺）に関する様々なできごとが書き留められています。

「安禅寺御用記」の成立に深く関わっているのが、蒲原郡末宝村（長岡市中之島地域）出身で、天保6年（1835）から嘉永3年（1850）まで蔵王代官をつとめた阿部信成です。蔵王代官は寛永寺に任命され、蔵王権現の祭祀の運営や社領の管理を行いました。阿部は保管されていた古い文書を丹念に筆写し、自らの在任期間中の収受文書をこまめに控えました。「安禅寺御用記」の記事索引を作成し、その冒頭で文書の保存・管理を疎かにすることは領内の乱れにつながると記し、蔵王代官の職務を遂行するために古記録を参考にしたことがわかります。

平成10年に長岡市に寄贈された古志郡雨池村阿部家文書は、阿部信成の家に伝わった資料群です。阿部家文書には「安禅寺御用記」と同じ内容の古記録「阿部家御用記」が含まれています。文書資料室では、安禅寺と阿部家の双方に伝わった古記録の原本と複製を閲覧することができます。書き留められた文書の一つ一つが、地域の歴史を記録として後世に伝えていくことの大切さを教えてくれます。

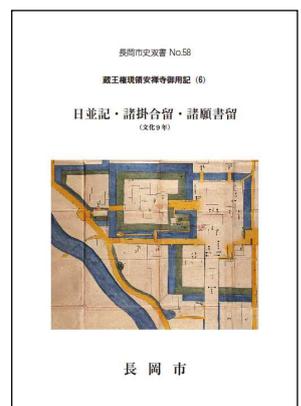
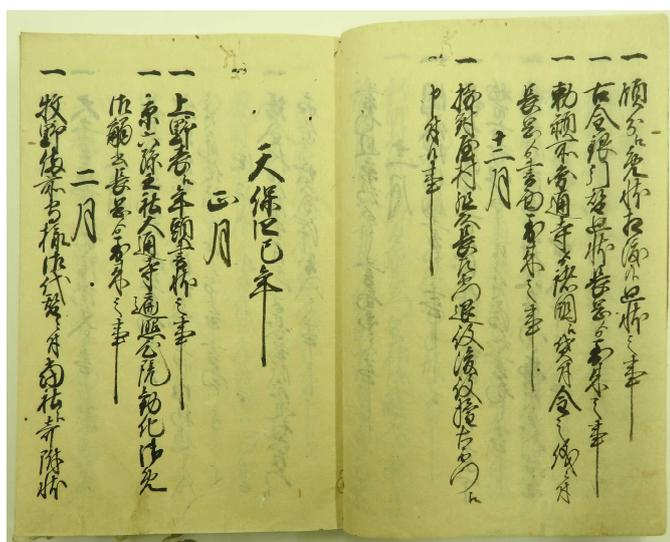
長岡市史双書 No.58

『蔵王権現領安禅寺御用記(6)』

日並記・諸掛合留・諸願書留(文化9年)』

最新刊!

安禅寺文書の翻刻史料集『蔵王権現領安禅寺御用記』シリーズの第6弾を刊行しました。文化9年(1812)の蔵王権現・安禅寺の古記録「日並記」「諸掛合留」「諸願書留」から長岡のすがたを探ります。本山寛永寺や長岡藩と、もの申す百姓との間で板ばさみになる蔵王代官。数年来続く長岡藩との地境訴訟は決着を見せるのか。付編として平成30年度新たに公開した訴訟相手の村の記録を収録。

頒布価格 1,500 円  
B5 版・132 ページ

▲御用記條箇（安禅寺所蔵、文書資料室寄託）

阿部信成による「安禅寺御用記」の記事索引。蔵王代官就任以前の宝徳2年(1450)から安永元年(1772)までと、在任時の天保3年(1832)から嘉永6年(1853)までの2冊を作成しました。

# 資料整理ボランティア通信 〈出張版〉

長岡市資料整理ボランティアは、中越地震をきっかけに被災歴史資料を整理・保存・活用することを目的として発足した市民ボランティアです。主に互尊文庫3階学習室で定例活動（古文書と新聞資料整理）を行っています。平成31年3月現在、登録メンバーは54名。「資料整理ボランティア通信」は、定期的にメンバーに発送している機関紙です。この「出張版」では、主に平成30年度の活動について報告します。

## 新聞資料整理

新聞資料整理は、全国紙5紙から製本用に地方版を切り抜く作業と、中越地震以降3年間収集した「日刊スポーツ」「スポーツ報知」「日本農業新聞」「日本工業新聞」の中から災害に関する記事を選ぶ作業を行いました。切り抜いた全国紙の地方版については、製本して保存しています。

今後は、専門紙の中から見つけた災害に関する記事をどのように保存・活用していくかが課題です。

また、本年度はメンバーからのリクエストに応じて、冬季にも活動を行うことができました。



## 古文書整理

活動を再開して3年がたちました。古文書が読める方、読めないけれど興味がある方、様々な方が参加してくださっています。

整理している資料は古志郡村松村（長岡市村松町）の金子家文書です。金子家は長岡藩上組割元をつとめ、文書は『長岡市史』『新潟県史』等にも利用されてきました。現在は、『長岡市史』編さん時に一度整理されたものを、クリーニングし、情報を確認しながら新しい文書袋に入れ替えています。これまでに約780点ほどが終了しました。数千点にのぼる文書群のため、まだまだ先は長いですが、引き続き地道に作業をしていきます。

また、平成28年度からは、新潟県立歴史博物館で、新潟歴史資料救済ネットワークが主催する雲洞庵文書（平成23年度新潟・福島豪雨による被災資料）の整理作業に参加しています。平成31年度も参加予定です。

## 会話が弾むティータイム

資料整理の休憩時間にティータイムを設けています。水分の補給とメンバーの親睦を図るためです。お茶やコーヒー、紅茶など好きなものを飲みながら、ちょっとしたお菓子をつまんでおしゃべりを楽しみます。そうして仲良くなった人同士で作業後にランチに行ったり、いろんなことを話題にしたりして親睦を深めているようです。



各自好みの飲み物で

## 年1、2度のペースで、県内の他ボランティア団体との交流会や合同作業を行っています

〈6月 十日町市古文書整理ボランティアとの交流会〉

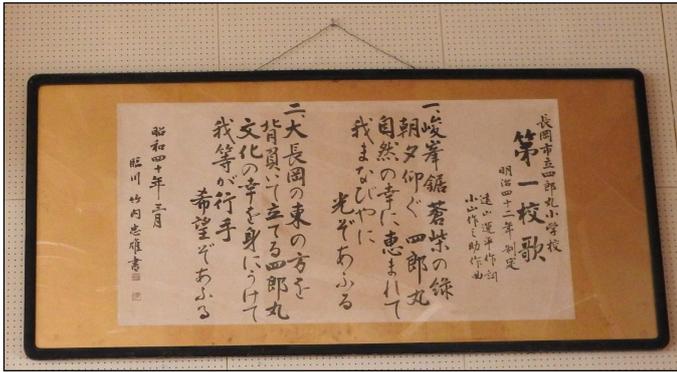
長岡市を会場に、合同で新聞資料整理とミーティングを行いました。作業後には長岡市立図書館開館100周年記念 長岡開府400年記念 所蔵資料展「図書館資料にみる江戸時代の長岡」を見学し、13年にわたる両ボランティアの交流を深めました。

〈9月 新潟歴史資料救済ネットワークとの合同作業〉

山古志地域で『山古志村史』などの関連資料を整理しました。作業後には山古志弁当を食べたりアルパカ牧場や中山隧道を見学したりするなど楽しい行事となりました。

また、毎年ではありませんが、「襖の下張り文書剥離作業体験講習会」の実施、企画展での活動展示、メンバーによる「活動報告会」の開催など、これまでの活動内容は多岐にわたります。

長岡市資料整理ボランティアは、随時メンバーを募集しています。初心者大歓迎です。文書資料室までお気軽にお問い合わせください。



長岡市立四郎丸小学校の校歌の制定は明治 42 年 (1909) である。県内でも古い校歌の一つに数えられるという。写真の額は、同校体育館に掲げられている。

自然の豊かさや未来への希望を、七五調のリズムに乗せて軽快かつ明快に詠い、百年以上を経た今も古臭さを感じさせない。作詞者の遠山運平 (うんぺい) は号を夕雲 (ゆうぐも) といい、長岡を代表する歌人であり、教育者でもあった。その足跡をたどってみたい。

遠山運平は明治 17 年 (1884)、北魚沼郡稗生 (ひう) 村 (小千谷市稗生) の金子家に次男として生まれた。事情があり小学校には 1 年遅れて入学したが、首席で卒業した。

卒業後は家業の農業に励みながら、母校の代用教員もつとめた。明治 30 年、目崎精松が北魚沼郡小千谷町寺町 (小千谷市) に私塾「斯道館 (しどうかん)」を開校すると、第 1 回生として入塾する。勉学の傍ら歌を作り始めたのは同 34 年頃で、翌年には新潟師範学校に入学した。在学中に「夕雲」の号を名乗るようになり、作歌の腕を磨き、学内の歌会では最高点をとるまでになった。号を決めた当時の作品から一首紹介したい。

ああ夕雲日輪ならで何ものか

汝をいろどるものあらんや

最初の赴任校は、東頸城郡下保倉小学校 (上越市、現在は閉校) であった。明治 40 年に旧長岡藩士の娘・遠山みねと結婚。翌年には阪之上小学校に転任となり、長岡に暮らすこととなる。ここから 5 年間、夕雲は校務の忙しさのために作歌の筆を折った。当時を回想し「私が歌を廃した五ヶ年間は、此の方の暗黒時代である。時々には歌をよむ連れがほしいと思つたがひろい長岡に一人もなく、たゞ昔の友が恋しいだけであつた」

と述べている (※1)。先述の校歌はこの間の作詞であることを考えると、自身の作歌への思いや職務への思いの詰まった詞に見えてくる。

昭和 7 年 (1932)、夕雲は栃尾小学校長を最後に、48 歳の若さで退職した。その遠因となったと伝えられているのが、同校在職中に起きた「御真影流失事件」である。この事件について夕雲は後に「御真影流出始末謹記」としてまとめ、県に報告している。

その報告によれば、大正 15 年 (1926) 7 月、豪雨に見舞われ刈谷田川が氾濫し、明治天皇の御真影を安置した奉安殿が鉄砲水に飲み込まれた。濁流を目の前にして、職員一同なす術もなく「何レモ魂ノ抜ケ殻」 (※1) だったという。夕雲は職員とともに幾十日も刈谷田川流域を捜し歩いた。当時、校長辞任を問われるほどの大事件であった。

栃尾での生活はおよそ 15 年に及んだ。多忙の合間に多くの歌を詠み、「夕雲短歌会」では後進の指導にもあたった。昭和 33 年刊『遠山夕雲歌集』には、栃尾時代に詠んだ歌も数多く収録されている。下記は栃尾を去るにあたり詠んだ一首である。

声限り呼びてわかれむ栃尾々々

われにはめぐみふかかりし名ぞ

長岡市愛宕町に居を定め、90 歳で亡くなるまでの四十年余は、まさに歌の中に生きた。「越佐新報」歌壇の選者となり、栃尾の「夕雲会」には必ず出席し、また「関原短歌会」の客員となった。推されて財団法人日本互尊社の主事となり、月刊誌『互尊独報』の編集に携わった。昭和 20 年の休刊まで、誌上に歌と随筆を発表し続けた。夕雲の作品は、作品集などで今も身近に触れ、味わうことができる。

「一生を貫く趣味として数千首は作つたけれど、もともと才能も努力も足りない素人歌なのである」 (※2)。没後なお多くの人から慕われるのは、夕雲のこの謙虚な人柄ゆえではないだろうか。

(本文中の※は引用の文献番号)

#### 【主な参考文献】

1 遠山夕雲遺稿集刊行会編『遠山夕雲遺稿集』

昭和 55 年

2 遠山夕雲『遠山夕雲歌集』昭和 33 年

#### 【文書資料室で閲覧できる参考資料】

・市史 07 遠山夕雲家文書

・災 H2005 齋藤迪信資料

・災託 H2101 古志郡浦瀬村樋口家蔵書 (斯道館蔵書)

《新たに公開した所蔵資料一覧》※寄贈・寄託順。保管場所の都合等で当日閲覧できない資料もあります。

- ・『温古の栞』『越之海』（中央図書館移管図書）
    - ・表町石井家文書（近・現代、36点）
    - （近代、62点）
    - ・古志郡小栗山村廣井家文書（近世～現代、2,590点）
  - ・古志郡内蔵王権現領地境出入関係文書
    - ・古志郡定明村吉澤家文書（近世～現代、808点）
    - （近世、7点）
    - ・長町佐藤家文書（近代地図・観光案内等）
    - （近・現代、73点）
  - ・三島郡関原村橘家文書（近世～現代、180点）
  - ・三島郡葛都新田村内藤家文書（近世、6点）
  - ・古志郡十日町村瀬水家文書（追加）
    - ・長岡藩士田中兵馬家文書（近世～現代、41点）
    - （近・現代、11点）
    - ・三島郡脇野町村長念寺蔵書（近世・近代仏教関係図書等）
    - （近世・近代、154点）
  - ・三島郡越路町豪雨水害資料（現代、15点）
  - ・古志郡山本村乙吉校教科書（近代、18点）
  - ・古志郡山本村宮路菊池家文書（近世～現代、98点）
  - ・三島郡本大島村高橋家文書（土地台帳・高橋由雄資料）
    - ・椿久雄撮影写真（現代、17点）
    - （近・現代、504点）
    - ・目崎先生三十三回忌追善法要写真ほか（斯道館関係資料）
    - （現代、2点）
  - ・三島郡和島村近代資料（下張り文書・県治報知ほか）
    - ・文久元年長岡城下絵図・江戸城西丸絵図
    - （近世・近代、6点）
    - （近世、2点）
  - ・戦災一周年記念「復興まつり」チラシほか
    - ・梶山家資料（近・現代、38点）
    - （現代、2点）
    - ・古志郡山本村浦瀬関谷家資料（近世～現代、80点）
- （平成31年2月末現在）

### 所蔵資料を展示しています

互尊文庫正面入口にて、二代片山翠谷筆「小山田観桜記（おやまだかんおうき）」の展示を行っています。「小山田観桜記」は、明治16年（1883）、中蒲原郡小山田村（五泉市）への花見旅行の際に描かれた絵の巻物です。展示では、複製とともに旅程等も紹介しています。

本展示は5月8日までです。互尊文庫にお立ち寄りの際は、ぜひご覧ください。



《編集後記》開設から20年、文書資料室には様々な歴史資料が保存されています。本紙で紹介した所蔵資料や活動をとおして、郷土長岡の歴史を探っていただければ幸いです。ご来室、ご参加をお待ちしています。（文書資料室長）

## 文書資料室 休館日 変更のお知らせ

平成31年4月1日より日曜日も休館します  
皆様のご理解をお願い申し上げます

### ◎変更後の休館日

- ・木曜日（祝日の場合は翌日）
- ・日曜日
- ・毎月の末日
- ・12月29日～1月3日
- ・互尊文庫の特別図書整理期間

開館時間は午前9時30分から午後5時までです  
互尊文庫の休館日は変更ありません



文書資料室の蔵書数は長岡市災害復興文庫をあわせて約16,000冊（平成31年1月現在）。長岡市立図書館の約90万点には遠く及びません。しかし、当室以外にはほとんどない分野の書籍があります。それは、新潟県外の自治体史です。

平成の長岡市史編さん事業の際に全国から収集したもの、郷土史家の先生方からいただいたものなど、来し方はさまざま。当室の図書をご利用の折は、巻末あたりに記された寄贈者名にもご注目ください。



平成31年3月31日発行

編集・発行：長岡市立中央図書館文書資料室

〒940-0065 新潟県長岡市坂之上町3-1-20（長岡市立互尊文庫2階）

TEL 0258-36-7832 FAX 0258-37-3754

E-mail: monjo@lib.city.nagaoka.niigata.jp